

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第 269 回 「極悪人・愛煙家」の、ちょっとうれしい話

2008.8.3

たばこ 1,000 円値上げ論議で、幾つかの意見が真っ向から対立している。愛煙家にとっては、まことに興味深い論戦である。1 箱 1,000 円になれば単純計算で 9.5 兆円の税収増とされ、超党派の国会議員連盟がたばこ税引き上げを目指しているが、果たしてどうなるか、いくつかの試算が公表されている。

1 つは従来からあった、日本学術会議の試算「最大の増収幅は、約 4 兆円」である。これを正面から否定するのは、京都大大学院の依田高典教授（応用経済学）の試算。たばこが 1 箱 1,000 円に値上がりすると、税収増どころか最大で 1.9 兆円税収が減るとの試算結果を 6 月にまとめた。依田教授の試算によると、1 箱 1,000 円では、これまでの研究から喫煙者の 97% が禁煙しようと思うと考えられ、全員禁煙に成功した場合、税収が 1.9 兆円減少する。仮に 1 箱 300 円の場合と同じ 54% の禁煙成功率で試算しても、税収増は 3 兆円だった。日本学術会議の 4 兆円には及ばない。一箱 500 円の場合は、禁煙しようと思う人の割合は 40% にとどまるとみられ、0.6 兆～1.5 兆円の税収増が見込める。

これに対し、厚生労働省研究班（主任研究者・高橋裕子奈良女子大教授）の試算は「たばこ 1,000 円、最大 5 兆 9,000 億円増収、8 割禁煙でも現状維持」として、同じ 6 月に発表した。

現行のたばこ関連税は、1 箱（20 本入り、平均約 300 円）当たり約 175 円で、総額約 2 兆 2,000 億円。研究班は、価格が 1,000 円になるよう税額を上げた場合、喫煙者がどの程度減少するかを、たばこの価格変動が喫煙行動に与える影響をまとめた過去の文献などを基に試算した。それによると、値上げに伴い 1 箱当たりの税額は 875 円と 5 倍に増加。これに伴い、たばこ関連税も今の喫煙者数のままなら 11 兆円と 5 倍になる。ただ、試算では喫煙者は 51.3～25.9% 減ると予測、たばこ関連税は 5 兆 3,570 億～8 兆 1,510 億円となり、3 兆 1,000 億～5 兆 9,000 億円程度の増収となるとしている。また喫煙者が 80% 減っても、2 兆 2,000 億円はまかなえると指摘。高橋教授は「値上げが実現しても、8 割の人が禁煙するのは欧米の状況を見ても想定しにくく、税収減はあり得ない」と話している。

来年度に予定されている基礎年金の国庫負担引き上げに伴い必要な 2 兆 3,000 億円を捻出するため、ここ最近、与野党の国会議員の間で 1 箱 1,000 円への値上げの動きが浮上しており、業界側は猛反発している。そうでなくても、不当な扱いを強いられる愛煙家も、値上げに対しては、大変困ったものである。

でも、依田教授の試算のように、現在の愛煙家の 97% が禁煙するとは、とても思えない。お会いしたことないが、恐らく依田先生はたばこが大嫌いに違いない。心情的には高橋教授説を、無理やりにも支持したいところである。消費税 1% が約 2 兆円といわれている現在、約 6 兆円の増税はその 3% 近い貢献を果たすことになる。

税収面だけを見れば、愛煙家が頑張れば、消費税を 8% にしないで同じ効果を生む。愛煙家にとって、極悪人扱いをされている今より、ちょっと、うれしい話である。